



日本赤十字社沖縄県支部 令和2年7月豪雨災害 に対する活動報告（1）

令和2年7月豪雨災害は、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地に被害をもたらしています。日本赤十字社では、救護班やDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣し、被災者の支援を実施しています。日本赤十字社沖縄県支部でも、職員の派遣等を実施し、苦しんでいる人を救う活動に全力で取り組んでまいります。

職員の派遣

- ・7月8日 連絡調整員として、日本赤十字社沖縄県支部職員1名を熊本県支部へ派遣。



連絡調整員の派遣

- ・7月10日 沖縄赤十字病院より救護班1班（医師1名、看護師3名、連絡調整員2名）を熊本県へ派遣。

出発式において、本県支部比嘉副支部長は、「新型コロナウイルス感染症への対策を踏まえた対応が求められる。自身の安全を十分に確保しつつ、被災者の心身の助けになるよう、救護活動に当たってほしい」と激励の言葉を述べました。

救護班は、11日～14日の間、被害が大きい人吉市で救護活動を実施予定。



救護班出発式



副支部長あいさつ

義援金の受付

日本赤十字社では、令和2年7月豪雨災害で被災された方々を支援するため、義援金（義援金名称「令和2年7月豪雨災害義援金」）を受け付けています。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。